エコアクション２１

2025年度環境経営レポート

2025年4月～2026年3月

2026年8月1日

マテックス株式会社

１．環境経営方針

基本理念

マテックス株式会社は“窓をつうじて社会に貢献する”を経営理念の第一条に掲げております。
地球温暖化による環境破壊が、人類の活動に由来した問題であることをきちんと認識し、
環境負荷の軽減および環境保護に係わる社会貢献活動を積極的に実施します。

基本方針

当社は、社内の環境配慮意識を高めるための活動を推進するとともに、ＣＯ２等の温室効果
ガスの抑制に効果的な、省エネ型の開口部（窓）の提案・販売を積極的に取り組みます。
そのために、次の行動指針を定め、低炭素社会の実現に貢献する努力をします。

１．環境意識の向上を図り環境経営の継続的改善に努めます。

２．環境関連法規を遵守します。

３．資源・エネルギー（水、用紙、電気、ガソリン燃料）使用から発生するCO2排出量の削減に取り組みます。

４．廃棄物の適切な管理及び処理に努めます。

５．省エネ型の開口部（窓）の普及により家庭からのCO2排出量削減に努めます。

６．地域の社会貢献団体との協働を推進します。

７．組織への浸透を図るため職場チームでの取り組みを推進します。

2009年10月1日制定
2023年　8月1日改正
マテックス株式会社
代表取締役社長　松本浩志

２．事業活動の概要

（１）事業所名及び代表者氏名

マ テ ッ ク ス 株 式 会 社
代表取締役社長　松 本 浩 志

（２）所在地

〒170-0012　東京都豊島区上池袋二丁目１４番１１号

（３）環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者：　総務統括部　部長　　松本俊輔
ＥＡ２１担当者：　総務統括部　係長　　和田里美
電　話　番　号：　03-3916-2634
Ｆ　Ａ　Ｘ 番 号：　03-3916-2645

（４）事業内容

エコ窓を中心とした健康省エネ建材の卸売事業/地域企業（窓販売店、工務店、リフォーム店）の啓発と活動支援/複層ガラス、樹脂サッシの製造/健康省エネのライフスタイル提案活動/環境リテラシー教育と社会志向型人材の育成活動/自治体、NPO 法人、パートナー企業との協働によるサードプレイス施設運営

一般建設業許可番号	国土交通大臣許可(般-5)第24988号
特定建設業許可番号	国土交通大臣許可(特-5)第24988号
道具商	東京都公安委員会許可　第305502217585号

（５）資本金　　100,000,000円

（６）事業の規模

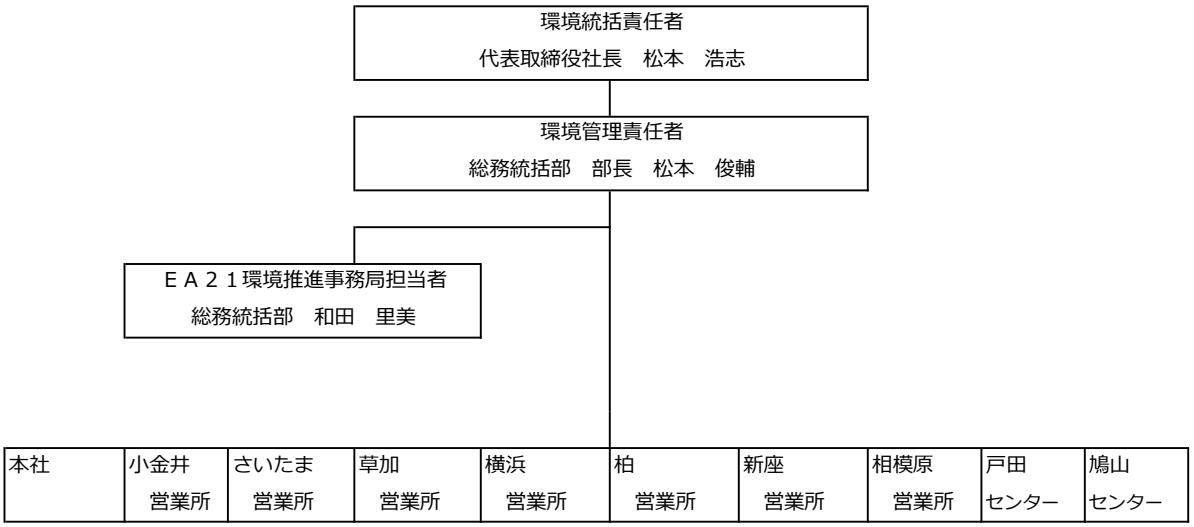
2025年度売上高　　170億279万円

従業員数　　287名

所在地および床面積

本社・倉庫	〒170-0012	東京都豊島区上池袋2-14-11	1,925㎡
小金井営業所	〒184-0013	東京都小金井市前原町5-1-17	1,097㎡
さいたま営業所	〒330-0855	埼玉県さいたま市大宮区上小町1405	883㎡
草加営業所	〒340-0003	埼玉県草加市稲荷6-12-16	721㎡
横浜営業所	〒224-0054	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町182	794㎡
柏営業所	〒277-0863	千葉県柏市豊四季945-47	1,379㎡
新座営業所	〒352-0002	埼玉県新座市東3-2-1	1,168㎡
相模原営業所	〒252-0216	神奈川県相模原市中央区清新6-16-13	816㎡
戸田センター	〒335-0027	埼玉県戸田市氷川町2-3-12	1,699㎡
鳩山センター	〒350-0306	埼玉県比企郡鳩山町竹本1315	6,145㎡

（７）実施体制図



	役割・責任・権限
代表者（社長） （認証登録範囲のトップ）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者 (環境経営システム　代表者の代理)	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局 （環境管理責任者の補佐）	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加（各自の役割の遂行）

３．環境活動の取組結果と評価

２０２５年度は、環境目標を２０２４年度を基準年度としています。

項　　目			単　位	2024年度	2025年度 (2025/4～2026/3)		達成	達成率
				実　績	目　標	実　績		
目標数値	二酸化炭素	排出量	kg-CO2	413,399	306,000	316,809	×	97%
使用量内訳	電気	排出量	kg-CO2	105,794	0	15,443	×	算出不可
	ガソリン	排出量	kg-CO2	82,180	82,000	87,037	×	94%
	軽油	排出量	kg-CO2	219,263	219,000	209,884	○	104%
	灯油	排出量	kg-CO2	5,834	5,000	4,131	○	121%
総排水量		排出量	㎥	3,649	4,000	3,578	○	112%
産業廃棄物排出量		排出量	kg	1,679,416	1,679,000	1,460,521	○	115%
エコ窓普及促進会				環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	○	―

※電気　排出係数（kg-CO2/kWh）　調整後

東京電力エナジーパートナー㈱ 0.421（前年0.408）、 湘南電力㈱　0　、㈱ボーダレスジャパン　0　、

アースシグナルソリューションズ㈱　0　、合同会社ＹＫＤエナジー　0

大和ハウス工業㈱ 0

※太陽光パネルによる自家発電力の利用

横浜営業所42台、鳩山第三工場384台　の太陽光パネルを設置。

①電気　CO2排出量の削減

【取組内容】　再生可能エネルギーの導入、太陽光パネル設置、断熱性の高いガラスへの交換、空調の適温管理、
省エネタイプの照明器具への取替、調機の定期的フィルター清掃、照明の未使用時電源ＯＦＦの実施、

【評　　価】

鳩山センター第三工場の再生可能エネルギーへの切り替えを５月に終えた。電気による
CO2排出量は切り替えまでの２カ月間（4～５月）に発生したもので、６月以降は、0を達成している。

【次 年 度】　適切な電力会社の選定

②ガソリン　CO2排出量の削減

【取組内容】　アイドリングストップの実施、エコドライブの実施、燃費状況の把握、車内の整理。

【評　　価】　目標に対し、達成率９４％

数値を把握することにより、各自の燃費向上の意識を高めていきたい。

【次 年 度】　計画配送による適正燃費の把握

営業車両の適正台数を稼働率により算出・検討

③軽油　CO2排出量の削減

【取組内容】　アイドリングストップの実施、エコドライブの実施、燃費状況の把握、車内の整理。

【評　　価】　目標に対し、達成率１０４％

数値を把握することにより、各自の燃費向上の意識を高めていきたい。

【次 年 度】　計画配送による適正燃費の把握

④灯油　CO2排出量の削減

【取組内容】　暖房機を点けっ放しにしない、カーテンを開けっ放しにしない。

【評　　価】　目標に対し、達成率１２１％。

営業所倉庫での暖房器具で使用が多くを占めている。今後は電気化することも検討していく。

【次 年 度】　倉庫での暖房器具の電気化を検討

⑤水道使用量の削減

【取組内容】　水を出したままにしない。漏水簡易チェックを定期的に実施する。

【評　　価】　目標に対し、達成率１１２％

鳩山センターのペアガラス製造工程で輸入ガラスの洗浄が多くを占めることから効率化を追求していく。

【次 年 度】　今後も継続する。簡易的な漏水検査を実施する。

⑥産業廃棄物の適切な管理及び処理

【取組内容】　分別を徹底しリサイクルに努める。5S活動による倉庫内の整理整頓。

【評　　価】　目標に対し、達成率１１５％。

自社排出以外の産廃（工事現場からの持ち込み）の適切な対策発信、

全社的に倉庫内の５Ｓ改善活動の推進による不要なガラス等の処分を実施したことにより、倉庫内の

整理整頓を進めることができている。

【次 年 度】　分別を徹底しリサイクルに努める。

産廃処理場の視察及び処理・分別の理解

⑧イベント出展、講座開催

2025年12月　ウェルビーイング連続講座 in 立教大学　主催：マテックス×東京海上日動×豊島区×立教大学
2026年 1月　健康セミナー2026 in 横浜
https://www.matex-glass.co.jp/topics/article_3242.html

■エコ窓普及促進会の取り組み

マテックスが事務局を務めており、ＣＯ２など、温室効果ガスの排出を抑制するために、断熱リフォームによる窓の高性能化が効果的かつ重要なこと、またその導入を促進する三省連携補助金を一般のお客様や関連施工業者に広く認知してもらい、省エネ効果の高い樹脂製内窓やエコガラスの普及促進を図っています。自社ビジネスの発展はもちろん、低炭素社会を実現し、地球環境保護へ貢献していくことを目的としています。

＜活動実績＞
2025年 6月：かわぐち環境フェスタ
2025年12月：練馬区役所　窓リフォーム相談会開催

■SBT認証 中小企業版　取得

SBT（Science Based Targets）認証とは、企業の温室効果ガス削減目標を科学的根拠に基づいて定める国際イニシアチブです。パリ協定に沿った環境目標を企業が設定し、それを達成するための計画を評価します。目標は産業革命前比で気温上昇を1.5°C未満に抑えるための削減率を基準に設定されます。マテックスは、

Scope1（自社による直接排出）
Scope2（他社から供給された電力などの使用に伴う間接排出）
Scope3（Scope1、Scope2以外の間接排出。事業者の活動に関連する他社の排出や顧客の排出）
それぞれ目標レベルに応じたGHG排出削減活動をしてまいります。

■「B Corp™」認証取得　―サステナビリティにおける国際的な認証―　※2025年6月認証取得

アメリカのNPO法人「B Lab™ 」が運営する、2006年に開始された国際認証制度。B CorpのBは「Benefit for all」（株主に限らない、すべてのステークホルダーにベネフィットをもたらすこと）」を意味している。5つの評価エリア、ガバナンス（企業統治）、ワーカー（労働者、従業員）、コミュニティ、エンバイロメント（環境）、カスタマー（顧客）において評価されるこの認証取得にチャレンジしている。

※2026年4月時点で認証を取得した企業は世界で約10,000社であり、日本では82社が取得。マテックスはその中の54社目となる。

SPRING Fest（スプリング フェスト）

仕入先様、顧客とともに持続可能なビジネスにシフトするための取り組みとして、毎年4～5月の期間SPRING FEST（スプリングフェスト）を開催しております。

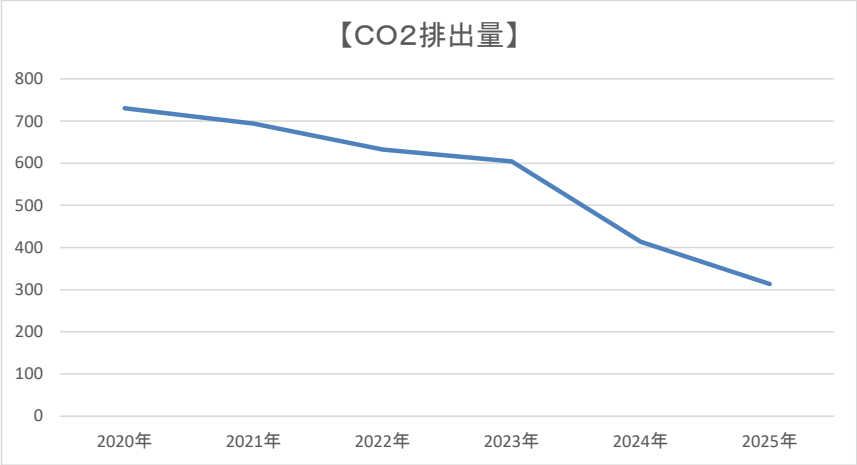




環境負荷数値実績推移について

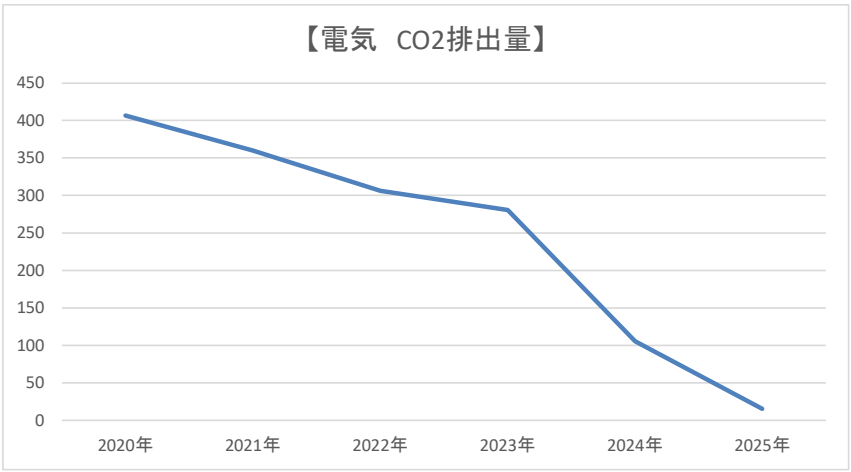
【ＣＯ２排出量】

年度	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
排出量　kg-CO2	729,905	693,997	632,162	604,236	413,399	312,953
排出量　t -CO2	730	694	632	604	413	313



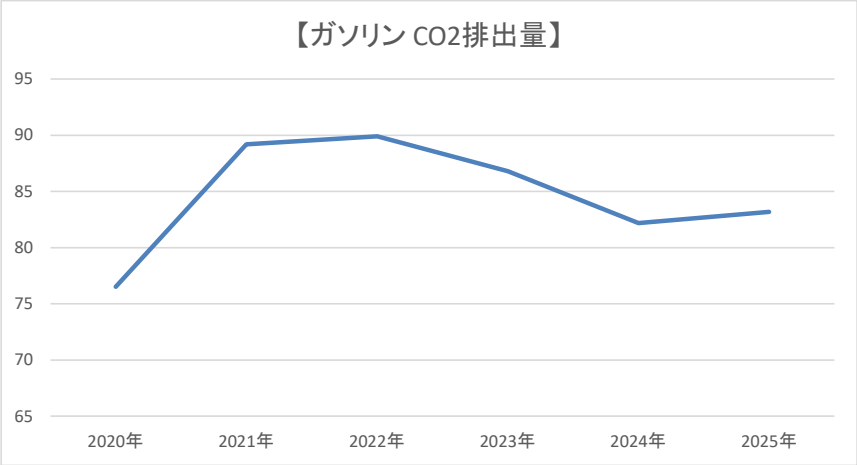
【電気　CO2排出量】

年度	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
排出量　kg-CO2	406,850	359,860	306,232	280,709	105,794	15,443
排出量　t -CO2	407	360	306	281	106	15



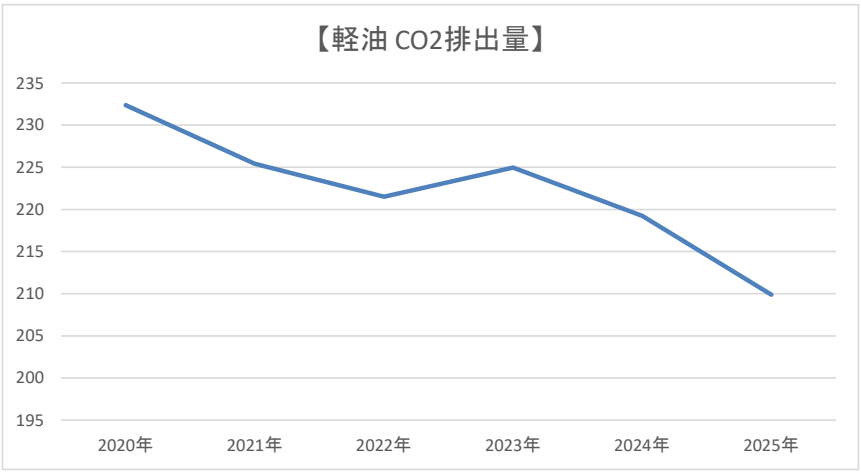
【ガソリン CO2排出量】

年度	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
排出量　kg-CO2	76,511	89,177	89,893	86,786	82,180	83,181
排出量　t -CO2	77	89	90	87	82	83



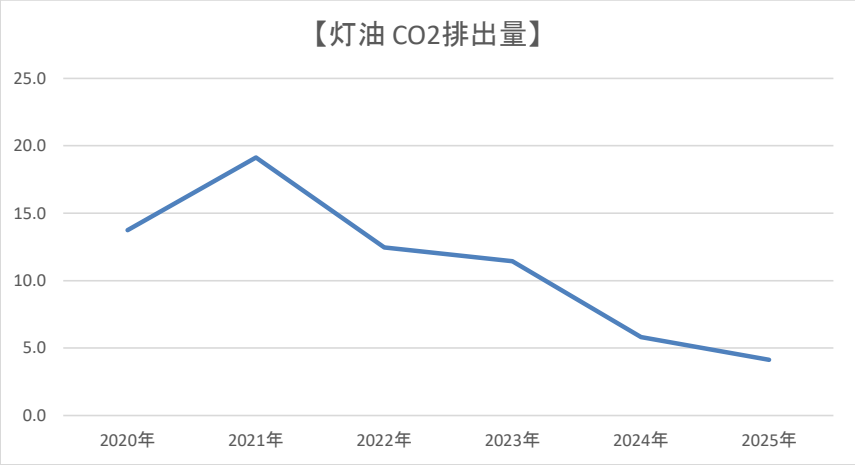
【軽油 CO2排出量】

年度	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
排出量　kg-CO2	232,358	225,433	221,497	224,985	219,263	209,884
排出量　t -CO2	232	225	221	225	219	210



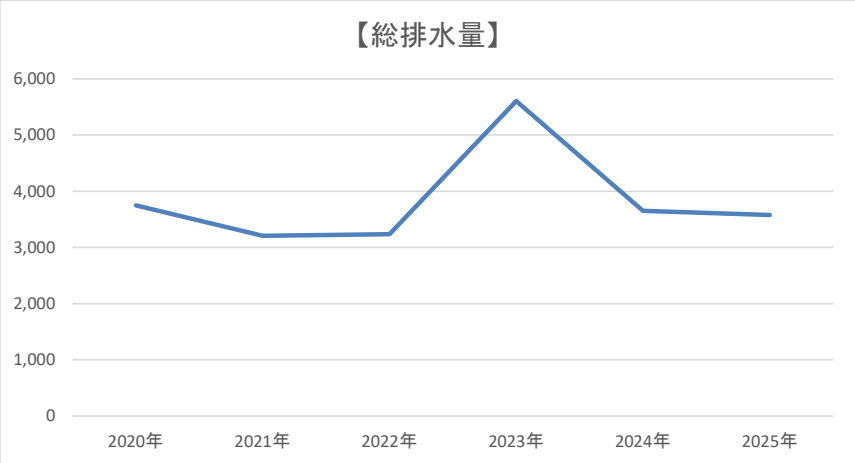
【灯油 CO2排出量】

年度	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
排出量　kg-CO2	13,731	19,139	12,459	11,433	5,834	4,131
排出量　t -CO2	13.7	19.1	12.5	11.4	5.8	4.1



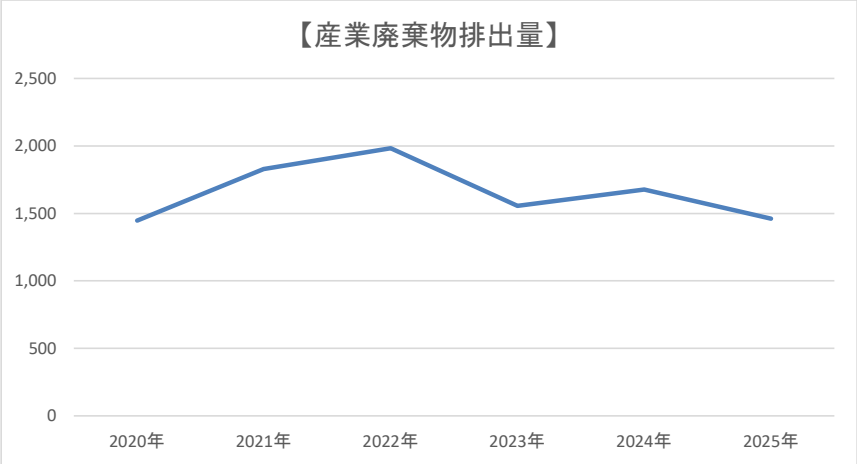
【総排水量】

年度	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
使用量　㎥	**3,745**	**3,209**	**3,231**	**5,604**	**3,649**	**3,578**



【産業廃棄物排出量】

年度	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
排出量　t	**1,447**	**1,830**	**1,983**	**1,556**	**1,679**	**1,461**



４．次年度以降の環境経営目標及び環境活動の内容と中長期計画

（１）環境負荷削減目標数値

項　　目		単　位	2024年度 基準	2025年度 2025/4～ 2026/3	2026年度 2026/4～ 2027/3	2027年度 2027/4～ 2028/3	2028年度 2028/4～ 2029/3	2029年度 2029/4～ 2030/3	2030年度 2030/4～ 2031/3
目標削減率	二酸化炭素			前年比26%減	前年比3%減	現状維持	前年比2%減	前年比2%減	現状維持
	使用量			現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
目標数値	二酸化炭素	kg-CO2	413,399	306,000	299,400	299,400	293,000	286,600	286,600
内訳	電気	kg-CO2	105,794	0	0	0	0	0	0
内訳	ガソリン	kg-CO2	82,179	82,000	80,400	80,400	74,000	67,600	67,600
内訳	軽油	kg-CO2	219,263	219,000	219,000	219,000	219,000	219,000	219,000
内訳	灯油	kg-CO2	5,834	5,000	0	0	0	0	0
総排水量		㎥	3,649	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600
産業廃棄物排出量		kg	1,679,136	1,679,000	1,679,000	1,679,000	1,679,000	1,679,000	1,679,000
エコ窓普及促進会			環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動

（２）環境活動の内容

１．二酸化炭素排出量の削減

■再生可能エネルギーへの切り替え
■エアコンの設定温度を常に意識する
■私服勤務推進による服装での温度調節
■アイドリングストップ、急発進、急加速しない
■車には余計な荷物を積まない
■効率の良い配送をする
■パソコンは外出時に消す
■退社時間を遵守する
■文房具等の備品は会社指定のエコ商品リストから購入する

２．水道使用量の削減

■節水を促す表示を行い、節水意識の向上
■食器洗いや手洗いの際、水を出したままにしない
■漏水検査を実施する

３．産業廃棄物排出量の削減

■発注ミス・破損を無くすようにする
■ペアガラスはグレチャンを外し、ジャミと産廃を分ける
■５S改善活動の推進により、整理整頓を実施する

4．エコ窓の普及促進活動等

■地域の社会貢献団体との協働
■補助金活用によるエコガラスの普及促進
■樹脂窓の販売促進
■ガラスのリユース

５．環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

（１）廃棄物の処理及び清掃に関する法律、下水道法、フロン排出抑制法など、環境関連法規の遵守状況を自ら確認及び評価した結果、問題ありません。
（２）関係当局からの違反の指摘は、過去３年間ありません。
（３）訴訟も、過去３年間ありません。

６．代表者による全体評価と見直しの結果

□見直し実施日　2026年7月27日

□出席者
環境統括責任者：　松本浩志
環境管理責任者：　松本俊輔
EA21環境推進事務局担当者：　和田里美

□見直し内容
①環境基本方針変更の必要性：　あり
②環境目標変更の必要性：　あり
③実施体制変更の必要性：　なし

□２０２５年度活動結果と２０２６年度の取り組み
CO_2排出量削減に向けた当社の課題は、電気・ガソリン・軽油の使用量削減であると認識しており、2025年度も引き続き削減に向けた取り組みを実施してまいりました。主な取り組みとして、再生可能エネルギーへの切り替えによる電力使用に伴うCO_2排出量の実質0kg化、計画配送の推進による軽油使用に伴うCO_2排出量の削減、ならびにエコ窓の普及に努めております。
今後もこれらの取り組みを継続し、さらなるCO_2排出量の削減を推進してまいります。

CORPORATE ACTION

マテックスの事業は SDGs17 の目標につながっています。その活動内容を紹介します。

脱炭素社会実現に向けた場づくり

エコ窓リフォームの普及活動と補助金制度の設計支援



エコ窓普及促進会/制度設計の提案

エコリフォーム補助金制度の構築を提案するセミナーを地方自治体の環境政策課、 住宅課を対象に開催しています。千葉県柏市の「柏市エコハウス促進総合補助金制度」の導入を皮切りに 板橋区、新宿区、豊島区、武蔵野市、府中市、川崎市、多摩市の制度づくりの支援をしてきました。



エコ窓普及促進会/生活者コンタクト

2009 年に発足した地球温暖化対策地域協議会「エコ窓普及促進会」は、「窓」のエネルギーロス対策について広く知らせると同時に生活者の環境リテラシー向上を目的としています。 生活者に「日常生活の”CO2 削減“や”健康維持“には窓の断熱が重要なんです！」ということを知っていただくために地方自治体の環境系イベントへ参画し、窓の断熱改修の普及促進活動を行っています。



よこはま省エネ住宅アカデミー

2015 年より、横浜市公民連携事業「テーマ型共創フロント」に採択されマンションにお住まいの生活者の方々を 対象に省エネルギー住宅アカデミーを開催し、エコリフォームの効果と管理組合の合意形成からエコ窓導入までの支援をしています。 「住まい手による、住まい手のためのマンション窓断熱改修講座」には、たくさんの方のご参加をいただいています。



健康省エネのライフスタイル提案

機能の優位性を訴求するばかりでなく、生活者の新しいライフスタイル提案を基軸とした窓辺のプチリノベーション 「madolino」を展開。 感性価値の提案からはじまり、後に健康省エネの啓蒙に努めることで関心をもって頂ける生活者層が拡がりつつあります。



社会志向型地域企業の養成



地域企業サポート/元請転換

家庭における「エコソリューションとしての窓」を的確に提案提供できるパートナーを輩出することに価値を置き、 下請業から生活者向けの元請サービス業へシフトするためのサポート活動です。2008 年のスタート時 7 店に留まっていたエコ窓リフォーム店を、2020 年現在には 300 店強規模にまで拡げています。

地域企業サポート/真の健康省エネ住宅

2016 年からは、真の健康省エネ住宅を社会に広めるために新築を手がける地域工務店までサポートの範囲を広げました。低炭素社会づくりに不可欠な高性能住宅のつくり方のノウハウを現場見学会やセミナーを通じて提供しています。見学会には 2020 年現在で 200 社を超える企業様にご参加いただいています。

持続可能社会の実現に向けた人づくり次代を担う若者の育成と社内大学の創設



「環境課題解決と仕事のモチベーション」セミナー

学生に対しては「環境課題解決と仕事のモチベーション」を題材としたセミナーやワークショップを提供しており、キャリア設計の支援を越えた環境リテラシーの養成と社会志向型人材の育成に取り組んでいます。

【連携校】和光大学、立教大学、東洋大学、日本大学、大正大学、嘉悦大学、法政大学、文京学院大学、東京家政学院大学、東京成徳大学



インターンシップによる環境リテラシー教育

インターン生に事業で社会課題を解決する意義をお伝えすべく、短いものでは 1day から、長期のものでは 6 ヶ月まで受け入れしています。今日では大学の教授やキャリアセンターからも弊社のインターンシッププログラムに関心が寄せられ、教え子の参加を促されるケースが多く出てきています。 また、インターン経験者が後に正社員として入社を希望するケースもあり、環境問題の解決に取り組む意欲のある学生を応援する場づくりが実現しつつあると確信しています。

社内大学の創設と新しい終身雇用の実現

新しい終身雇用を実現すべく“マテックスカレッジ”を創設しました。ビジネスパーソンとしての知識やスキル習得はもちろん、一人ひとりが人間としての幅をひろげるため、魅力的な大人になるためのプログラムを用意しています。



持続可能社会の実現に向けた まちづくり人づくりステキなまちづくり、ロングライフへのシフト



地域社会貢献団体の支援/としま情熱基金

より良い地域社会づくりに必要な活動を支援するために、としま NPO 推進協議会と区内の事業者が中心となって設立した基金（委員長：マテックス株式会社 松本浩志）です。
年に一度、基金助成を目的とした事業提案を区内の NPO より募集し、書類審査、最終審査会によるプレゼンテーションを経て採択された事業に支援金を授与致します。一時金による支援に留まることなく、循環型の活動に発展していくことを目指し取り組んでおります。

住まい・健康・環境の取り組み/
一般社団法人ロングライフ・ラボ

(一社)ロングライフ・ラボは、人、コミュニティー、地球環境が、健全な状態を維持していくための情報提供などを行うことで、持続可能な社会を形成することを目的に設立されました。

①省エネで健康を維持増進できる住宅

②自然治癒力を高めて過度な医療に頼らない健康法

③地球温暖化対策思想、地球環境保全思想の普及以上

3 つの活動を軸に展開しています。



持続可能社会の実現を支えるモノづくり高性能窓の製造から見える新しい社会のスタンダード



高性能窓の製造

今日では国内新築戸建住宅の約８０％に採用され、窓ガラスのスタンダードとなったエコガラスの普及を、製造供給する立場から支えてきました。脱炭素社会へのシフトを加速するために、環境先進国で標準仕様となっている樹脂製サッシの製造も行っており、より一層高まる窓の断熱基準のご要望に応え続けています。

